

# 回 顧 録



呉市手をつなぐ育成会

副会長 井本 健一

2021年5.6月号から1年、呉市手をつなぐ育成会を牽引しておられる副会長の井本健一さんが、「育成会」との出会いから「育成会」に繋がるたくさんの人との出会いなど現在に至るまでのお話を紹介してくださいました。その連載したものを掲載いたします。

自 2021年5.6月号

至 2022年5.6月号



皆さん、こんにちは。

呉市手をつなぐ育成会副会長の井本です。

この度、私がこれまで、育成会で経験してきたことを連載企画でお伝えすることになりました。

呉市手をつなぐ育成会も発足からはや55年が過ぎ、親の会の発足から数えると60年以上経つこととなります。時代とともに、障がい者をとりまく環境も変化し、それにともない育成会の活動もいろいろな形で変わってまいりました。

時系列の情報は育成会40周年記念誌「きぼう」や50周年記念誌「つなぐ」に詳しく載っておりますので、機会があればぜひご覧いただきたいと思います。私の記憶をたどって進めてまいりますので、不確かなところや、ひょっとして、私が勘違いしている部分もあるかと思っておりますので、お気づきになられた方はご遠慮なくご指摘をいただければと思います。

私と育成会との出会いは平成11年に呉で開催された、広島県精神薄弱者育成会の県大会がきっかけでした。当時は手をつなぐ育成会は精神薄弱者育成会と呼ばれていました。

その年、私は呉市PTA連合会の会長を務めており、あて職として、県大会の実行委員を委嘱され、育成会という組織と初めて出会うことになりました。私の次男は当時二河中学校の障害児学級に通っていましたが、育成会に関しては不勉強で、どのような活動をしている団体なのか、無知・無関心な状態でした。

呉大会の準備に関わりながら、そこに関わる多くの組織や関係者の方と出会い、障がいのある子供の親の一人として、育成会というものに、将来への可能性を見つけ出せたような気が致しました。この第25回大会をきっかけに、私の育成会での活動が少しずつ始まることになりました。また、この大会にP連からいっしょに実行委員として、参加していただいた田盛さんも、障がいのある子供の親であり、それから、永い間、育成会活動を共にしていくことになったのです。

実は、この大会の数年前に育成会とはちよつとした接触があったのですが、その話はまた次回。

今思えば、この当時は育成会の形が大きく変わる時期でした。

…つづく



皆さん、こんにちは。

今回は平成11年前後の呉市手をつなぐ育成会の転換期についてお話したいと思います。

40周年記念誌「きぼう※1」にも詳しく載っていますが、昭和34年に呉市手をつなぐ親の会が発足しました。これは障がいのある子供の親の情報交換とその

切実な願いを行政に届けるため組織されました。また昭和40年には知的障がいのある人を支えるため、行政主導で教育関係者、社協、民生・児童委員、自治会等が中心となって呉市精神薄弱者育成会が設立され、親の会もこの会に合併されました。

事務局は社会福祉協議会内におかれていました。しかしその後昭和48年には親の会は再度独自に活動を始めることとなり、平成8年に精神薄弱者育成会が改称して現在の呉市手をつなぐ育成会となり、親の会の根石さんが会長になるまで、別の道を歩むことになりました。

親の会はその後も保護者会の一つとして活動を続け、平成16年に解散することになります。この組織改革のあった2年ほど前、私がPTA連合会の会長を務めていた時、一人の青年が私のもとに相談に訪れました。

障がい者本人たちが集まってコンサートをしたい。PTAで協力してもらえないかということでした。そこで、障がい者に関するイベントであれば、精神薄弱者育成会のことは名前を知っている程度でしたが、案外協力していただけるのではないかと、事務局を訪ねたのです。

ところが、その時の対応は「急な事業に対して、臨時の役員会を開くことはできない」と、ほぼ門前払いだった記憶があります。

PTAとしても、組織で取り組む余裕がなかったため、個人的にいろいろな方にご支援いただきながら、会場の確保や企画の進行の為のアドバイスをさせていただきました。コンサートは実行委員会を中心にみごと成功し、第1回ふれあいコンサートとなりました。今思えば、PTA連合会の中に、障がい者に関わる部会組織を立ち上げる絶好のチャンスだったのですが、そのチャンスを逃してしまって、悔やまれてなりません。

さて、平成8年の組織改革と時を前後して、事務局も総合福祉会館からふれあい会館に移転することになりました。県大会の次の年には、事務局長に、当時開設したばかりの「かしの木」の職員の田村さんが就任され、いよいよ育成会の新しい時代が始まります。

…つづく



皆さん、こんにちは。

前は平成11年前後の育成会の転換期について、お話いたしました。

平成12年、いよいよ新しい育成会がスタートします。事務局長には田村さんに続いて、翌年には再度「かしの木」のご協力を得て、職員の井手元さんが就任されました。

私も常務理事として、会の運営に参加することになりました。より柔軟に機動的に会を運営するため、理事、評議員から会長が数名を委嘱し総務委員会をたちあげ、翌13年度からは「運営委員会」として現在に至っています。また、私自身の経験と反省から、会の活動をより多くの方に知っていただくことを目的に「呉市手をつなぐ育成会事務局だより」第1号を平成12年10月にスタートさせました。現在の育成会だよりの始まりです。従来の育成会だより「きぼう」は年1回、総会にあわせての発行でしたので、より新しい情報が早く届くよう月1回の発行目標としました。

こうして新しい組織づくりにとりくん だわけですが、従来は県育成会の活動を伝えていただけの内容でしたので、呉独自の組織も活動内容もほぼ白紙であり、そこで、根石善夫さんたちと広島市手をつなぐ育成会の活動を勉強させてもらおうと、広島事務局を訪ねたことがあります。

広島活動は当時、地域ごとの組織があったように記憶していますが、その中で、父親の会というのを見つけました。これはいいと、呉でも早速父親の会を立ち上げるきっかけになりました。また、それまで、呉市内の各地域で、多くの保護者会が独自の活動をされてきており、一緒に育成会活動に参加していただく、各グループの世話人の方に声をかけさせていただきました。こうして徐々に呉市手をつなぐ育成会の組織や運営の枠組みが固まってきました。この頃には、平成7年に始まったふれあいコンサートも回を重ね、呉市における「障害者の日」記念行事として、岩木達実行委員長、事務局共同作業所たまごを中心に盛大に開催されておりました。

…つづく



皆さん、こんにちは。

呉市手をつなぐ育成会は平成13年までの準備期間を経て、平成14年いよいよダイナミックに動き始めます。より大胆かつ繊細な活動を目指して、専任の新事務局長兼常務理事として、その年、上山田小学校校長を退職された渡辺徹子先生をお迎えします。校長時代に培った手腕と人脈はもちろん、抜群の行動力で新事業を進め、現在の「歌う会」や「いっせい子ども太鼓」が発足し、本人部会の活動が充実していきました。また、それまで事務局を会場として活動を行ってきた悩みごと相談窓口も、社会福祉士でご自身も難病をもたれている掛江淳子さんや、育成会のお母さん方を中心に定着した活動となっていきました。相談コーナーを担当するお母さん同士のふれあいもかけがいのないものだったと思います。渡辺先生は現在も多方面でご活躍のこととうかがい、育成会活動へのご支援も相変わらずいただいております。感謝申し上げます。

私もこの年の役員改選により、現在の副会長に就任することになりました。

平成12年はもうひとつのイベントが始まりました。それは、ふれあい会館に事務局を置く育成会の他、ひかり作業所、青虫の会、芸南たすけあいの各団体、法人が合同ではじめた「ふれあい七夕まつり」です。会場はふれあい会館隣のマツダさんのご協力で駐車場スペースを提供いただきました。育成会は例年、ステージ設営、紅白幕張、焼きそばコーナーを担当し、雨によくたたられたことが記憶にあります。近隣の幼稚園、保育所を巻き込み本人部会の方たちと楽しい時間を過ごすことができました。

お母さんたちが朝早くからキャベツと玉ねぎを切り、父親の会のお父さんたちが暑い中、汗をかきながら一生懸命焼きそばを焼いてくださったのが印象的です。今では、会館が解体されたため途切れてしまいましたが、楽しい思い出です。

そうして翌年の平成15年には会長の根石さんがご高齢のため、会長を退任され、後任の会長には、根石さんはじめ育成会の総意でお願いに上がった森功前呉市教育長に就任の快諾を得ることが出来、又、新たな時代が始まったように思います。

…つづく





皆さん、こんにちは。

平成15年に、森功会長、渡辺徹子事務局長体制がスタートしました。この頃には、内部運営のかなめである運営委員会、事務局会が現在のように機能しはじめており、いよいよ外に向けて様々な企画を展開できる体制になりました。実は森会長とは、会長が呉市の教育長在職時代、私が呉市PTA連合会の会長を務めていた関係で、当時教育界を揺るがせた高校教育改革、義務教育改革や市内の小中学校の統廃合など、多くの課題に共に取り組んだ間であります。

呉市手をつなぐ育成会においても今後の展開の上で、ぜひとも森会長にご協力をいただきたいと思ったわけですが、それが実現し、内心ほっとした次第です。

この年、育成会主催の最初のシンポジウム「呉地域に療育センターを」を開催しました。会の議論の中で、今呉に何が必要かをあぶりだし、それをテーマにシンポジウムを開くというパターンが以後続いていきます。

渡辺事務局長の発案もあり、本人部会の活動も広がっていきます。平成15年には広島市野外活動センターで野外活動キャンプを実施16年にはグリーンヒル郷原での一泊二日合宿が始まり、これはおおかた10年くらい継続されました。

平成17年は何かと忙しい年になりました。呉市手をつなぐ育成会が40周年を迎え、記念事業としては、会の活動を次世代につなぐ意味で、40年記念誌を発行し、これまでの歩みをまとめようということになりました。

私が編集委員長を担当し、多くの方のご協力ご支援を得て、なんとか18年の春には発刊の運びとなりました。またこのための資金集めの一環として、チャリティ絵画展の開催もあり、他方面の団体個人の方に多大なるご支援をいただきました。改めて本当にありがとうございました。また、この年から、呉市からのご厚意もあり、海上花火大会に際して、大和ミュージアムの観覧席を育成会にらせていただき、それ以降毎年、多くの障害者の方やご家族を花火大会にご招待することが出来ました。ただ、会場整理について、事務局には相当の負担をかけたものと、事務局には感謝しております。又、この年は障害者自立支援法が成立した年でもありました。

…つづく



皆さん、こんにちは。

今回は平成 17 年の忙しかった頃のお話をしましたが、17 年度末をもって森会長は勇退されることになります。

このころ、県内各地の育成会では、組織の法人化がすすんでおり、福山の育成会も一足先に NPO 法人となっていました。

呉でも平成 15 年ころから、このことについて、継続して議論してきました。法人化にはメリットもデメリットもあります。

呉市手をつなぐ育成会はその歴史のなかで、多くの方面からの協力をいただいて成り立っております。福祉保健部、教育委員会、社会福祉協議会をはじめ、行政、事業者、支援団体、保護者、本人など、多彩なメンバー構成で運営されております。

法人化となると、それを運営する役員の構成に、様々な制約がでてきます。呉市手をつなぐ育成会は本人、保護者、行政、事業者の間で中立的な立場を保ちながら、いろいろなサービスが円滑に機能するよう潤滑油のような役割を果たしてきました。

他の地域とは一味違う、この特性を生かしていくには、育成会の法人化は好ましくないとの結論に至り、現在の形で運営されております。

ただ、同時に障害者施設の支援、在宅児者の援護、雇用促進を目的に、呉市手をつなぐ育成会とは別に NPO 法人呉いくせいを設立しました。

平成 18 年度末には認可となり、翌 19 年度より活動を始め、それまで育成会で取り扱ってきた、寺本公園の清掃、花植栽管理や歯科医師会館における清掃研修活動などの事業を NPO 法人の事業に移し、法人としての活動を開始いたしました。

この活動はその後、平成 25 年に施行された障害者優先調達推進法にもとづき、呉市をはじめ各法人からの障害者関連事業者への発注の共同受注窓口として、その事務局機能を果たしています。

このころの育成会活動は、父親の会、保護者会（お母さんの会）、夏の海水浴、親子プール教室など多彩で、本人部会でも、従来の活動に加えフライングディスク、ボーリング大会、クリスマス会などが開催され、それに加え講演会（シンポジウム）、ケアマネ研修参加等充実した活動のできた時期だったと思います。

…つづく



皆さん、こんにちは。

平成19年頃といえば、私の感覚では、ついこのあいだのような気がしておりますが、今年の東京オリンピックのスケートボード女子で金メダルを獲った西矢椛さんが生まれた年ですから、そうしてみると随分経っているんですね。

さて、平成20年には、それまでご活躍された渡辺常務理事、事務局長に代わり、新しく元校長先生の横川さんが就任されました。

前の年から始まった呉市社会福祉協議会と共催のボランティア養成講座が引き続き開催され、又次年度には広島県大会が呉で開催予定など、多忙な中、あらゆる行事に先頭にたって現場を引っ張っていただき、諸行事の継続発展にご尽力いただきました。

平成21年には森会長の後任の西本会長が退任され、新たに呉市の元保健所長であり当時広島文化学園大学看護学部教授の香川治子先生に会長就任の快諾をいただき、新体制がスタート致しました。

香川新会長には、就任そうそう、県育成会の呉大会ということで、慣れないなかで大変だったと思いますが、呉市手をつなぐ育成会の総力をあげて取り組むことができ、無事大会を終えることができました。

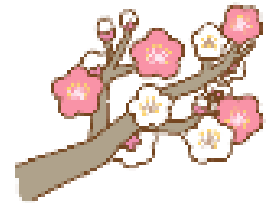
私にとっても、県大会の呉大会は第1回の原稿にも書いたように、育成会とのかかわりを持つきっかけになった事業ですので、これを機会に新しく育成会に関わってくださる方が増えることを期待しての大会でした。

又、この年から、サポートファイルの普及研修事業がスタートしました。サポートファイルの様式決定には行政はじめ、現在の副会長兼事務局長の徳永さんもかかわったと伺っていますが、広島県モデルが完成し、呉市が関係者に無償配布するという形で始まりました。配布のみでなく、記入方法やサポートファイルの大切さを理解していただくため、平成22年にはサポートファイル講師養成講座により講師陣を整え、要望に応じて、いつでもどこでも出前研修ができる体制を整えた時期です。

もう一つ、この年には、「学習障害の予防と治療」というテーマで広島文教女子大学の宇土博教授による最初の講演を行いました。発達障害が治るといって、それまでの療育専門家の先生は怪訝な反応をされたのを覚えています。この話は別の機会に改めてお話しします。

…つづく





皆さん、こんにちは。

今回は前回少し触れました宇土博教授による、障害の予防と治療について、少しご報告したいと思います。

宇土教授が初めて学習障害の子供に新経路治療を使って治療し、驚異的改善がみられたのは平成21年のことです。私のところに大変興奮して報告をしてこられたのを覚えています。その話を当時、広島県でも著名な療育の先生に早速ご報告したところ、まともに取り合っていただけませんでした。障害は治らないとされていたのが常識であった為、仕方ないかとも思いましたが、親からみれば、障害が治るなど夢のような話です。そこに望みをつなぐ気持ちを理解して頂きたかったなと思います。その後、この治療のさらなる研究を目的に平成23年には日本新経路医学会が設立され、全国から多くの医師や関心のある研究者が参加され、LDのみならず、AD/HD、自閉症他多くの成果をあげられて現在に至っています。平成30年にはそれまでの成果をまとめて「発達障害は改善します」という本が刊行されました。興味のある方は育成会の事務局にもおいてありますので、ぜひお求めください。

平成23年から24年にかけては、めまぐるしく忙しい時期でした。それだけ育成会スタッフのエネルギーがほぼしっぺたころだと思います。夢の懸け橋実行委員会に向けての始動であったり、「劇団たいよう」の呉公演実現のための実行委員会設置、日本連合教育会全国大会呉大会での分科会など、多くの事業が目白押しでした。それまでも呉市手をつなぐ育成会では、本人たちがいかに地域と共生していけるかという視点で、毎年シンポジウムを開催し、喫緊の課題について検討、提案をまいりました。

平成23年1月には第7回のシンポジウムが開催されました。時代の流れなのか、国の政策も我々の提案する方向ですすみ、地元行政とも育成会を通して、より効果的な支援を実現するため、意見交を行った結果、日常における多くのことが改善され、見違えるような環境になってまいりました。しかし、この頃から、「親なきあと」を真剣に議論する機運が一機に高まったのです。

…… つづく





皆さん、こんにちは。

今回は、前回少し触れましたが紙面の都合で詳しくお伝え出来なかった「劇団たいよう」呉公演について、ご紹介したいと思います。

平成23年の暮れ、呉市内で管理栄養士をされている、長島さんと湯川さんという二人の女性が私を訪ねてこられました。お二人は劇団たいようとの出会いのいきさつと劇団たいようが広島でぜひ公演を実現したいという熱い思いを語られました。

劇団たいようは1995年に旗揚げされた隠岐の島に拠点をおく劇団です。

知的障害者支援施設「仁万の里」を利用されている仲間と職員による演劇サークルとしてスタートし、「障害のある人もない人も一緒になって舞台を構成し、みんなで楽しみ、誰もが輝きあう」ことを目的として活動されています。

呉市手をつなぐ育成会で公演実現に向けて何とか力を貸してもらえないかというお話でした。

早速、育成会で皆さんのご意見を伺い検討した結果、育成会は全面協力するが、事業としては別途実行委員会を立ち上げて進めようということになり、平成24年の2月には、第1回の実行委員会が開催されました。幅広く多くの方に委員としてご活動いただき、その年の10月の公演に向け準備が進められました。

公演の内容は「あの日の授業」という演題で、戦争と平和をテーマとした内容となっています。チケットも委員の皆さんのご努力で目標を上回る900枚以上を売り上げ、無事、公演の日を迎えることができました。

講演後のアンケートでは様々な感想をいただき、「出演者のお一人おひとりがそれぞれ輝いていました。大きな勇気をいただきました。ありがとうございました。」など、感動する声が多く聞かれました。

また、この年、平成24年8月には、前回でも紹介しましたように、日本連合教育会全国大会が呉大会として、開催されました。

当時の呉教育会の会長は、呉市手をつなぐ育成会の会長を務められた森さんです。

この大会で分科会のテーマとして、初めて（と聞いております）、特別支援教育が取り上げられ、呉市手をつなぐ育成会としても全面協力することになりました。

分科会の司会は元常務理事の渡辺さん、提案者3名は信濃教育会と富山県教育会そして呉市教育会ですが、呉市については、育成会の副会長の徳永さんが担当されました。

又助言者として、育成会の香川会長（当時）と私の2名が担当させて頂きました。

貴重な機会をいただき大変ありがたく感じたとともに、こうした他団体の中での活動というもの、今後に新たな可能性を見出せるものだと感じました。

…… つづく



皆さん、こんにちは。

第8回の中で「親なきあと」の議論が重要なテーマとなってきたことをお話しました。このことについて深く掘り下げていくために、平成23年に事務局メンバーを中心に課題検討会議が始まりました。

当時は平成25年に施行される自立支援法にかわる総合福祉法への移行準備時期で、特にグループホーム、ケアホームに関して、関心の高まっている時期でした。

そうした時、徳永さんの紹介で宝塚市手をつなぐ育成会の活動を知り、百聞は一見に如かずということもあり、希望メンバーを募って貸し切りバスを仕立て見学研修会を実施することになりました。

研修会は平成24年9月に行われましたが、まさにその当時、8月は連合教育会呉大会、10月は劇団たいよう呉公演と大きな事業の隙間を縫っての開催でした。

宝塚訪問は我々呉市手をつなぐ育成会のメンバーにとって衝撃的なものでした。我々が目指していたものが、すでにそこに存在している、そんな光景でした。宝塚ではすべてのプログラムが育成会を中心に動いていました。参加メンバーの感想のなかにも「この度の見学を通して、親なき後の明るい未来が垣間見えた気持ちで一杯」とつぶられています。

このしくみをいかに呉で育てあげるかという新しい目標が生まれました。それまでの課題検討会議は平成25年より「魚の骨会議」という名称にて行政、法人関係者も参加して、研修部会長の田盛さんを中心に議論が重ねられました。ちなみに「魚の骨」とは、「現在の結果」がどのような原因で発生したのかを図式化して、問題解決に導く手法の一つで、魚の骨特性要因図と呼ばれるものからとった名前です。

会議の中で具体的な課題として、宝塚で運営されている、「訓練ホーム」を育成会で立ち上げるかもしくは、既存法人にお願いすることが出来ないかの検討がなされていきました。会議はその後「夢の架け橋実行委員会」と名称を新たに、訓練ホーム設立に向け真剣な議論が重ねられ、平成の世が終わるまで続けられましたが、残念ながら形として結果を残すことは出来ませんでした。しかし、この間、日本全体でみると、グループホームの建設は飛躍的に伸び、現在では平成24年当時と比較すると、その数はほぼ倍増しています。我々が「夢の架け橋実行委員会」の中で探り続けた、本人や保護者が安心して利用できるグループホームの必要性がその背景にあるのは間違いのない事実だと思います。

……続く 次回で最終回です



皆さん、こんにちは。

いよいよ連載も終わりに近づいて参りました。

前回からの続きになりますが、平成 25 年から令和元年にかけて、夢の架け橋実行委員会は断続的に活動をつづけていきました。平成 28 年には「訓練ホーム設立特別委員会」として、年 8 回の会合を持ち、翌 29 年には政府主導でスタートした「地域生活支援拠点モデル事業」が呉でも立ち上がり、育成会として、施設訪問や関係者との意見交換を通して、何とか夢の架け橋につながる糸口がないか模索を続けました。

そうした中で平成 27 年には呉市手をつなぐ育成会創立 50 周年記念事業、令和元年には私としては 3 回目となる県大会呉大会と、二つの大きな事業がありました。

50 周年事業では、今回は徳永さんが実行委員長として指揮をとられ、記念式典、記念講演、記念誌の発行の諸事業を実施しました。ちょうどこの年、事務局長兼常務理事が横川さんから元校長の平井さんに交代となり、慣れない中で、事務局も大変だったと思います。おまけに翌 28 年 10 月には、事務局がそれまでのふれあい会館から福社会館に引っ越しすることになり、とてもざわついた時期でした。

記念誌の編集には前事務局長の横川さんが全面的にボランティア協力をして下さり、本当に助かりました。その後、令和元年に県大会 呉大会が開催されました。この事業の年を一区切りとして、11 年の長きにわたり会長を務めていただいた香川さんが勇退されることとなりました。社会の大きな変化や障害者を取り巻く環境、政策の変化の流れの中で、育成会の会員がのびのびとその活動を展開し、成果をあげてこられたのも香川会長のお陰と心から感謝している次第です。

又令和元年からは徳永副会長が、常務理事事務局長を兼任することとなり、令和 2 年には現在の品川会長に新しく就任いただき、現在に至っています。

さて今回、事務局から育成会の歴史を振り返ってみてほしいと依頼をいただいて、私が育成会とかかわりを持って以降のことについて、記憶をたどりながら綴ってまいりました。振り返ると昨日のこのように感じますが、本当にいろいろあったなという思いと同時にたくさんの人に関わって頂き、お力添えをいただいて今日までできたことに感謝しかありません。

これからもまた新しく多くの人に支えられて育成会の活動は続くと思いますが、現在の活動の基本である、本人を真ん中においた、行政、事業者、親、地域の諸団体の連携がより一層絆を深めて充実した活動となっていくことを願っています。

……終わり



令和3年5.6月号にスタートいたしました，井本副会長の連載は今後の育成会の活動に期待を寄せて終了となりました。

育成会との出会いはPTA活動の最中だったようです。

現在も役員として若い世代に背中を見せてくださっておられる井本副会長。今後も引き続きご支援下さいますようお願いいたします。

障害者を取り巻くサービスも時代と共に豊かになって来ましたが，育成会の役割は，これまでもこれからも本人・家族に寄り添っていく事です。

今後も一歩ずつ活動を続けて行きたいと思っています。

徳永